

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500097
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム けやきの里
所在地	愛媛県新居浜市大生院154-3
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

水に塩素系洗剤を混ぜての事業所内のモップ掛けと拭き掃除で、感染症や細菌の繁殖を抑えるための掃除を職員が毎日行っている。入居者様一人ひとりが自分のペースで生活できるよう声掛け、援助を行っている。毎日のラジオ体操を実施し、入居者様の体力低下の防止に努めている。2週間に1度の音楽療法や暖かい日には敷地内の散歩を随時行い、気分転換を図ったり、四季折々の草花や農作物に触れていただけるような機会を設けるようにしている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、19歳から75歳までの幅広い年齢層の職員がそれぞれの持ち味を生かしながら、理念の「その人らしい『愛』ある暮らし」を実現できるようチームケアに努めている。誕生月に利用者一人ひとりが希望する場所に外出ができるよう支援するなど、個別ケアにも取り組んでいる。また、地域交流の機会を広げるため、公民館で開催されるお笑い寄席や地区の清掃行事にも積極的に参加し、地域住民に顔を覚えてもらえるよう努めている。協力医との24時間体制での医療連携が取れており、月2回訪問診療のほか、急変時にも迅速に対応することができる。また、法人が運営する特別養護老人ホームから週3回看護師が訪問して健康管理をしており、利用者や家族は安心感がある。さらに、毎朝行われる健康体操や月2回音楽療法があり、楽しみながら健康づくりにも努めている。利用者からの日々の小さな「ありがとう」を励みに、職員が心を合わせてサービスの向上に取り組もうとしている事業所である。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームけやきの里

(ユニット名) くす棟

記入者(管理者)

氏 名 酒井 由美子

評価完了日 平成 26 年 12 月 12 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築している。また管理者、職員は入居者様が住み慣れた地域で、穏やかに安心して生活を継続して送れるよう、日々の介護現場や職員研修・ミーティング等で理念を確認しあいケアの統一を図るように努力している。</p> <p>(外部評価) 法人理念を基にして、「その人らしい『愛』ある暮らしを」という事業所独自の理念を職員間で話し合い作成し継承している。職員は利用者一人ひとりの「愛ある暮らし」とは何かを考えながら、利用者に寄り添いながらその人らしい生活が送れるよう支援している。職員同士が同じ方向を向いて、理念が実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し地域の活動（地域の一斉清掃や河川の草刈り、寄席への参加）や行事に積極的に参加している。また、自治会の活動はもちろんのこと、事業所での行事に地域の方々に参加して頂けるように努めている。</p> <p>(外部評価) 地区の住民と顔見知りの関係になれるよう、地域行事に積極的に参加している。年3回公民館で開催されるお笑い寄席には利用者と一緒に参加し、地区の住民に車いす移動を手伝ってもらっている。地方祭では近くのスーパーへ太鼓台の見物に出かけ交流している。また、事業所で行われる敬老会には和太鼓のボランティアの演奏があり、近所の人々も見物に来ている。2か月に1回傾聴ボランティアが訪れ、合唱等で利用者を楽しませてくれている。</p>	町内会から情報を得て地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めている。さらに、隣接する小・中学校の生徒と交流したり、幼稚園・保育園児と交流できる機会づくりをしたりするなど、利用者が社会参加し交流を広げられることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症高齢者の理解を深める活動はあまり出来ていない状態である。今後も運営推進会議の場を十分に活用し、認知症高齢者の理解や支援方法、グループホームの役割などの説明を行っていく。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見や検討項目について職員会で報告し 検討している。いただいた意見に対しては実行できるように 取り組み次の会議で経過報告をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族代表、民生委員、地区社協支部長、市担 当者等の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利 用者の状況や活動報告を行うほか、事故報告を行っている。 行方不明者の早期発見のための方法や災害発生時の避難協力 を参加者と話し合うなど有意義な会議となっており、地域か らの事業所への期待も寄せられている。また、会議の参加者 から地域行事の情報を得て、お笑い寄席等への参加が実現し ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 3か月に1回事業所の入居者情報を市の介護保険係に届け情 報を開示したり、情報をいただいたりしている。また、困っ たことなども相談している。運営推進会議にも市担当者に参加 していただき、相談やアドバイスをいただいている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の活動状況を知っ てもらおうと共に、アドバイスなどをもらっている。介護保険 事務で分からないことがある場合には、市担当者に問い合わせ 指導を受けている。また、2か月に1回介護相談員の訪問 があり、利用者の話を聴いてくれサービスに反映させてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体で取り組み、定期的に職員研修を行っている。今ま でに身体拘束を行わなければならない事例は見られていな い。これからも全職員が理解できるよう指導を行い、身体拘 束ゼロの取り組みを行っていく。	
			(外部評価) 管理者は職員に対して言葉の拘束を含めて何が拘束になるか ということを伝えており、利用者の行動を制止するような声 かけが少なくなったと感じている。日中玄関の施錠はしてお らず、開閉時にはチャイムが鳴るため職員には常に耳を澄ま せるよう指導している。頻繁に一人で外出する利用者には、 納得のいくまで付き添って歩くなどの対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で取り組み定期的に職員研修を行っている。管理者は職員のストレスや様子にも気を配り職員と話し合いする機会を設け、虐待の徹底防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人全体で取り組んでおり、職員会や勉強会を通じて学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様の申し込み時や契約時に重要事項説明書、利用契約書に沿った説明を行い不明な点はその場で説明し理解、納得した上で入居していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様の言葉や表情・態度からその思いを察するように努め、入居者様主体の運営を心掛けている。また、家族会等の御家族の来訪時にお話させていただき、意見や要望を日々のケアに生かしている。御家族に運営推進会議にも参加していただき入居者様や御家族の意見や要望を表せる機会を作っている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの生活歴をよく把握し、それまでの生活スタイルを大切にして、その人らしい生活が送れる支援ができるよう努めている。年3回家族会を開催し、意見や要望を聞く機会を設けているが意見はあまりだされない。家族の面会時には職員から利用者の様子を伝え、意見を聞くように努めておる。出された意見は介護計画に反映し対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の職員会で意見や提案を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすい雰囲気を作る様に心掛けている。</p> <p>(外部評価) 毎月の職員会で職員は利用者一人ひとりの状況等を確認し合い、対応方法などの提案を出し合っている。法人には充実した教育と研修制度があり、職員は法人内外の研修に積極的に参加している。外部研修に参加する場合は研修費の助成等があり、資格取得も奨励している。また、職員の状況に応じて就労条件に配慮があり、働き続けられるような環境整備をしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日頃から積極的に声を掛け目標と、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加出来るようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会し職員も勉強会に参加して他のグループホームの職員と交流し意見交換や勉強ができるようにしている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前には必ず本人様と事前面接を行い心身の状態把握や本人の思いを受容するように努めている。また、可能な場合は、御家族と一緒に事業所を見学して頂き、不安を少なくできるように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず御家族にお会いし、これまでの生活歴や申し 込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握 するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な場合は市の支援センターを紹介した り他の施設の紹介をする等の対応を行っている。受診が必要 と思われる場合は病院の紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 普段の生活の中で入居者様に教えて頂くことが多くある。昔 の風習や畑仕事などを教えてもらいながら一緒に行う場面が ある。折にふれ感謝の気持ちを伝え、協力しながら生活をし ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族の来訪時や電話連絡にて日頃の本人様の健康状態や生 活状況について報告し、共有することで、本人様を支えてい く為の協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご本人様の希望により知人宅に電話をかける支援をしたり訪 問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の 暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めてい る。また、入居後も面会時等に御家族や知人より情報収集に 努めている。 (外部評価) 入居前にできるだけ自宅を訪問し、利用者の生活環境や生活 歴、人間関係等を把握するよう努めている。入居後にも職員 は利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの馴染みの人や場所な どを把握するよう心がけている。利用者の誕生日には聴き 取った情報から、馴染みの場所へドライブに出かけている。 馴染みの神社を参拝した利用者から「夫が夢枕に立つようにな った。」という意見が聞かれ、今後お墓参りなどを計画し ている。	利用者の誕生日を特別の日として位置付け、利用者の 希望に応えようとする取組みは特筆すべき内容であ る。利用者と家族との関係を大切に、家族と協力し ながら利用者を支援していくため、家族の知らない利 用者の様子を伝える手段として、事業所便りを発行す るなど広報活動を充実していくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中、雑談中も入居者様の状態を観察し、時には会話の中に入り関係が円滑になるように調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も入居者様の御家族が職員を訪ねて来られたり、管理者に介護保険関係の書類の相談にみえたりと継続した関係性が保たれている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で本人様の思いを把握するように努めている。入居時や御家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や行動に注意して観察し本人様の思いを出来るだけ汲み取るように心掛けている。	
			(外部評価) 管理者は「寄り添うケア」を大切に考えており、職員はそれを実践するため、利用者の側に座って目線を合わせて声かけを行うよう心がけている。言葉を話しづらい利用者にも絶えず声かけを行うことで、家族から「表情が豊かになった」という感想も聞かれるようになった。意向を伝えることができない利用者には、表情や様子を見て思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に今後の声掛けや介護に生かすことを説明した上で、本人様のこれまでの暮らし方や生活歴を本人様、御家族から伺っている。入居後も折にふれ話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の癖や生活パターンを観察し、どのような場面で不穏になるのか、どのような声掛けや援助をすればよいのか職員間で話し合い、共通認識を持つように努力している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。また本人様、御家族の意見も取り入れている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を確認し、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者毎の担当制は設けず、職員は利用者一人ひとりの状況を把握するようにしている。毎月数回に分けてケースカンファレンスを行い、職員間で話し合いモニタリングを行っている。介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催して介護計画の見直しをしている。気づきシートファイルやケアプランファイルを作成して情報の共有を図り、職員は介護計画を意識したケアに努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別に食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話している内容等を記録するようにしているが、結果や気づきが十分に記録へ反映できていない。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居者様、御家族のその時の状況に応じた対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また御家族が安心して就労や生活ができるように努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 傾聴ボランティアの受け入れをしている。また、消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講も行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医の訪問診療を受けたり、事業所の協力医のほ か、御家族の意向を聞き通院の介助を行っている。通院に関 しては、御家族同行をお願いしているが、不可能な時、緊急 時には職員が付き添いをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受診する ことができる。協力医との24時間体制での医療連携が取れて おり、月2回訪問診療のほか、急変時にも迅速に対応するこ とができるため、入居時に希望して協力医をかかりつけ医に する利用者も多い。また、市内で法人が運営する特別養護老 人ホームの看護師が週3回訪問し、健康管理をしている。希 望するかかりつけ医の訪問診療を受けている利用者もいる。 専門医の受診は家族付き添いを基本としているが、車いすの 利用者には職員が病院への送迎をしている。また、月2回音 楽療法を実施し、楽しみながら健康づくりをしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>主治医や訪問看護師と密な連絡体制ができており、日々の健 康管理や体調不良時に随時訪問して頂けるようになってい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し、入院中は 職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努め、御家族とも 連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様の重度化に伴う指針を作成し、入居時に説明してい る。入居者様が元気で意思表示できるうちに可能であれば重 度化した場合の意向を伺う等、御家族とも話し合いをしてい る。また、どのような場合にホームでの対応が困難か等も合 わせて話をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、入 居時に利用者や家族に説明し意向を確認している。法人とし ては看取りを行わない方針で、利用者の状況変化に応じて、 事業所として対応できる内容を説明し、家族を交えて話し合 いながら適切な医療機関などに繋げている。家族から「可能 な限り事業所で見て欲しい」という要望が出され、職員研修 にも取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命法の受講をしたり、緊急時の対応について勉強会を行っている。夜間帯の緊急対応については周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、年2回入居者様も参加した避難訓練を行っている。消防署に火災や災害時の対応について相談を行いアドバイスを頂いている。また、地域の方との話し合いを行い、避難についての協力体制が築けている。  (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。風水害や地震などの災害発生時には建物の安全性が確保されているため、地域の避難者の受け入れ要請があった場合には、事業所の一部を提供できるよう用意している。自治会から担架の貸し出しの提案や地域との合同避難訓練の情報提供がされている。運営推進会議で話し合いながら、地区の消防団にも訓練に参加してもらうよう呼びかけるなど、相互の協力体制を整えようとしている。また、水や食料品などの備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症高齢者に対しての声掛けや態度、人格の尊重については職員会や勉強会で話し合いや学びの時間を設け、その中で自分自身の声掛けや態度について振り返りを行っている。  (外部評価) 管理者は職員に利用者の自尊心や羞恥心について考えながらケアをするよう指導している。トイレ介助時は利用者の安全を確保しながら、排泄中は職員は廊下に出て終わると合図してもらったり、抵抗のある利用者には可能な限り同性介助をしたりしている。入浴時や更衣時にはプライバシーを確保してケアをするよう気をつけている。また、利用者と呼ぶ時は、「さん」付けで呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から入居者様の状態に合わせた声掛けを行っている。思いや希望を引き出せるように複数の選択肢を与える声掛けを行うように心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の1日の流れはあるが入居者様の個々のペースを大切にし、希望に添えるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思決定できる入居者様に対しては洋服を選ぶことや髪型等、できるだけ本人様の意思を確認し決めるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で作った作物と一緒に調理して食べたり、一緒に食事の準備や後片付けをしたりしている。  (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、ユニット毎に職員が調理している。畑で収穫した玉ねぎやじゃがいもなどの野菜を使用して調理することもある。利用者が使い慣れた食器なども使用し、嚥下状態に合わせて食事形態を工夫して必要な栄養が摂取できるよう支援している。利用者は和やかな雰囲気です。食事をしている。利用者はジャガイモの皮むきや下膳などできることを一緒に手伝っている。また、家族の協力を得て外食をする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立により栄養バランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように水分量のチェックを行い、水分摂取量の少ない入居者様には好みの飲料を提供する等して水分量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後の口腔ケアは特に気をつけ1対1で付き添い念入りに行っている。毎晩、義歯の消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用し排泄の声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を促している。排泄パターンを把握することにより時間帯によって布パンツ、紙パンツ、パット等を使い分けるようにしている。	
			(外部評価) 男性用と女性用トイレがあり、トイレの場所が利用者に分かりやすいよう矢印を表示している。排泄パターンを把握して、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。そのために、利用者の状態や時間帯に合わせて声かけして誘導したり、適切な排泄用品を選択したりするなど排泄の自立を促している。夜間自力でポータブルトイレを使用している利用者もいるが、夜間もなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操や散歩を行い、食事に気をつけ、出来るだけ自然排便出来るように取り組んでいる。また緩下剤の使用も医師や看護師と相談し服用して頂き、排泄表でチェックしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる対応はしている。入居者様の体調や希望に応じ入浴時間を調整したり、介助を行ったりして、気持ち良く入浴出来るよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望があれば、毎日入浴できるよう支援している。浴槽への移動が難しい利用者には、シャワーチェアやシャワーキャリーが用意され、安全に入浴ができるよう支援している。立位が保てない利用者には、2人体制で介助を行う場合もある。入浴が苦手な利用者には、職員を代えて声かけをしたり、時間や日を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中活動的に過ごして頂くことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。また日中でも体調や希望に応じて、居室で横になり休息する時間がとれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が理解できるように個人ファイルに服薬説明書を閉じ、いつでも見ることができるようにしている。服薬状況に変化がある時には、職員の連絡ノートに記載し、全職員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの入居者様が好むお手伝いや楽しみごとを把握し、その都度お願いし感謝の言葉を伝えている。洗濯物を見ることで干すのは自分の役目と思っている入居者様もおられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日は日常的に散歩に出掛け、入居者様それぞれの誕生月には希望に応じてドライブや買い物、なじみの場所に行くことができるように支援している。  (外部評価) 天候の良い日は、広い敷地内や建物周辺を散歩している。地方祭の時にはスーパーまで太鼓台の見物に出かけている。公民館で開催されるお笑い寄席にも毎回参加するようになった。誕生月には、利用者の希望を聞いて、思い出の場所にドライブしたり、買い物に出かけたりするなど、特別な外出日として喜ばれている。	利用者の重度化に伴い利用者の外出する機会が減っているため、職員は近くにできたスーパーに買い物に連れて行ってあげたいと考えている。外出が難しい状況であるが、外出できる機会を増やせるよう工夫することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に入居者様がお金を持つことはなく、買い物をした時は職員が代行で支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様からの希望があれば電話できるように家族様にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所の廊下は車いすでの移動を安全に行える広さになっている。またホールではゆっくりとくつろげている。大きな窓からは外の景色を眺めることができ、畑の作物の収穫時には作物を見て手で触れ、季節を感じて頂けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>広い敷地内には畑があり、季節の野菜を栽培している。玄関には建物に添うように大きなスロープがあり、車いすでも容易に外出することができる。廊下も広くゆったりとしており、車いすがすれ違えるスペースが十分に確保されている。大きな窓から明るい光が差し込むリビングは食卓と畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、オープンキッチンで利用者は調理の様子を見たり匂いを感じたりすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合う入居者様同士が集まり話をする姿が毎日見られる。テレビを視聴したり、新聞を読んだり入居者様が思い思い自由に過ごされており、自然に一人になる時間が持てている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>御家族に協力いただき入居者様の思い入れのある家具や洋服、写真など身の回りの品が少しずつは増えているが、まだまだその人らしい居室になっているとは言えない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>広々とした居室にはクローゼット、エアコン、電動ベッドが備えつけられ、ベッドは利用者に合わせた高さに設定されている。壁には利用者の生活歴を辿るように若い頃からの写真がレイアウトされて飾られ、机には古いアルバムが置かれている。また、定期的に遠方の家族から送られる絵手紙を飾っている利用者もいる。ベッドでの生活に抵抗を感じる利用者のために、畳敷きの部屋も用意している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手すりや段差のない環境を作り、できるだけ一人で安全に移動できるようにしている。トイレや居室の場所がわからない場合、張り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500097
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム けやきの里
所在地	愛媛県新居浜市大生院154-3
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

水に塩素系洗剤を混ぜての事業所内のモップ掛けと拭き掃除で、感染症や細菌の繁殖を抑えるための掃除を職員が毎日行っている。入居者様一人ひとりが自分のペースで生活できるよう声掛け、援助を行っている。毎日のラジオ体操を実施し、入居者様の体力低下の防止に努めている。2週間に1度の音楽療法や暖かい日には敷地内の散歩を随時行い、気分転換を図ったり、四季折々の草花や農作物に触れていただけるような機会を設けるようにしている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、19歳から75歳までの幅広い年齢層の職員がそれぞれの持ち味を生かしながら、理念の「その人らしい『愛』ある暮らし」を実現できるようチームケアに努めている。誕生月に利用者一人ひとりが希望する場所に外出ができるよう支援するなど、個別ケアにも取り組んでいる。また、地域交流の機会を広げるため、公民館で開催されるお笑い寄席や地区の清掃行事にも積極的に参加し、地域住民に顔を覚えてもらえるよう努めている。協力医との24時間体制での医療連携が取れており、月2回訪問診療のほか、急変時にも迅速に対応することができる。また、法人が運営する特別養護老人ホームから週3回看護師が訪問して健康管理をしており、利用者や家族は安心感がある。さらに、毎朝行われる健康体操や月2回音楽療法があり、楽しみながら健康づくりにも努めている。利用者からの日々の小さな「ありがとう」を励みに、職員が心を合わせてサービスの向上に取り組もうとしている事業所である。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームけやきの里

(ユニット名) つつじ棟

記入者(管理者)

氏 名 青野 光輝

評価完了日 平成 26 年 12 月 22 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築している。また管理者、職員は入居者様が住み慣れた地域で、穏やかに安心して生活を継続して送れるよう、日々の介護現場や職員研修・ミーティング等で理念を確認しあいケアの統一を図るように努力している。</p> <p>(外部評価) 法人理念を基にして、「その人らしい『愛』ある暮らしを」という事業所独自の理念を職員間で話し合い作成し継承している。職員は利用者一人ひとりの「愛ある暮らし」とは何かを考えながら、利用者に寄り添いながらその人らしい生活が送れるよう支援している。職員同士が同じ方向を向いて、理念が実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し地域の活動（地域の一斉清掃や河川の草刈り、寄席への参加）や行事に積極的に参加している。また、自治会の活動はもちろんのこと、事業所での行事に地域の方々に参加して頂けるように努めている。</p> <p>(外部評価) 地区の住民と顔見知りの関係になれるよう、地域行事に積極的に参加している。年3回公民館で開催されるお笑い寄席には利用者と一緒に参加し、地区の住民に車いす移動を手伝ってもらっている。地方祭では近くのスーパーへ太鼓台の見物に出かけ交流している。また、事業所で行われる敬老会には和太鼓のボランティアの演奏があり、近所の人々も見物に来ている。2か月に1回傾聴ボランティアが訪れ、合唱等で利用者を楽しませてくれている。</p>	町内会から情報を得て地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めている。さらに、隣接する小・中学校の生徒と交流したり、幼稚園・保育園児と交流できる機会づくりをしたりするなど、利用者が社会参加し交流を広げられることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症高齢者の理解を深める活動はあまり出来ていない状態である。今後も運営推進会議の場を十分に活用し、認知症高齢者の理解や支援方法、グループホームの役割などの説明を行っていく。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で出た意見や検討項目について職員会で報告し 検討している。いただいた意見に対しては実行できるように 取り組み次の会議で経過報告をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族代表、民生委員、地区社協支部長、市担 当者等の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利 用者の状況や活動報告を行うほか、事故報告を行っている。 行方不明者の早期発見のための方法や災害発生時の避難協力 を参加者と話し合うなど有意義な会議となっており、地域か らの事業所への期待も寄せられている。また、会議の参加者 から地域行事の情報を得て、お笑い寄席等への参加が実現し ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 3か月に1回事業所の入居者情報を市の介護保険係に届け情 報を開示したり、情報をいただいたりしている。また、困っ たことなども相談している。運営推進会議にも市担当者に参加 していただき、相談やアドバイスをいただいている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の活動状況を知っ てもらおうと共に、アドバイスなどをもらっている。介護保険 事務で分からないことがある場合には、市担当者に問い合わ せ指導を受けている。また、2か月に1回介護相談員の訪問 があり、利用者の話を聴いてくれサービスに反映させてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体で取り組み、定期的に職員研修を行っている。今ま でに身体拘束を行わなければならない事例は見られていな い。これからも全職員が理解できるよう指導を行い、身体拘 束ゼロの取り組みを行っていく。	
			(外部評価) 管理者は職員に対して言葉の拘束を含めて何が拘束になるか ということを伝えており、利用者の行動を制止するような声 かけが少なくなったと感じている。日中玄関の施錠はしてお らず、開閉時にはチャイムが鳴るため職員には常に耳を澄ま せるよう指導している。頻繁に一人で外出する利用者には、 納得のいくまで付き添って歩くなどの対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で取り組み定期的に職員研修を行っている。管理者は職員のストレスや様子にも気を配り職員と話し合いする機会を設け、虐待の徹底防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人全体で取り組んでおり、職員会や勉強会を通じて学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様の申し込み時や契約時に重要事項説明書、利用契約書に沿った説明を行い不明な点はその場で説明し理解、納得した上で入居していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様の言葉や表情・態度からその思いを察するように努め、入居者様主体の運営を心掛けている。また、家族会等の御家族の来訪時にお話させていただき、意見や要望を日々のケアに生かしている。御家族に運営推進会議にも参加していただき入居者様や御家族の意見や要望を表せる機会を作っている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの生活歴をよく把握し、それまでの生活スタイルを大切にして、その人らしい生活が送れる支援ができるよう努めている。年3回家族会を開催し、意見や要望を聞く機会を設けているが意見はあまりだされない。家族の面会時には職員から利用者の様子を伝え、意見を聞くように努めておる。出された意見は介護計画に反映し対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の職員会で意見や提案を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすい雰囲気を作る様に心掛けている。</p> <p>(外部評価) 毎月の職員会で職員は利用者一人ひとりの状況等を確認し合い、対応方法などの提案を出し合っている。法人には充実した教育と研修制度があり、職員は法人内外の研修に積極的に参加している。外部研修に参加する場合は研修費の助成等があり、資格取得も奨励している。また、職員の状況に応じて就労条件に配慮があり、働き続けられるような環境整備をしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日頃から積極的に声を掛け目標と、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加出来るようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会し職員も勉強会に参加して他のグループホームの職員と交流し意見交換や勉強ができるようにしている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前には必ず本人様と事前面接を行い心身の状態把握や本人の思いを受容するように努めている。また、可能な場合は、御家族と一緒に事業所を見学して頂き、不安を少なくできるように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず御家族にお会いし、これまでの生活歴や申し込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な場合は市の支援センターを紹介したり他の施設の紹介をする等の対応を行っている。受診が必要と思われる場合は病院の紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の生活の中で入居者様に教えて頂くことが多くある。昔の風習や畑仕事などを教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折にふれ感謝の気持ちを伝え、協力しながら生活をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族の来訪時や電話連絡にて日頃の本人様の健康状態や生活状況について報告し、共有することで、本人様を支えていく為の協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人様の希望により知人宅に電話をかける支援をしたり訪問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。また、入居後も面会時等に御家族や知人より情報収集に努めている。 (外部評価) 入居前にできるだけ自宅を訪問し、利用者の生活環境や生活歴、人間関係等を把握するよう努めている。入居後にも職員は利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの馴染みの人や場所などを把握するよう心がけている。利用者の誕生日には聴き取った情報から、馴染みの場所へドライブに出かけている。馴染みの神社を参拝した利用者から「夫が夢枕に立つようになった。」という意見が聞かれ、今後お墓参りなどを計画している。	利用者の誕生日を特別の日として位置付け、利用者の希望に応えようとする取組みは特筆すべき内容である。利用者と家族との関係を大切にし、家族と協力しながら利用者を支援していくため、家族の知らない利用者の様子を伝える手段として、事業所便りを発行するなど広報活動を充実していくことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中、雑談中も入居者様の状態を観察し、時には会話の中に入り関係が円滑になるように調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も入居者様の御家族が職員を訪ねて来られたり、管理者に介護保険関係の書類の相談にみえたりと継続した関係性が保たれている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で本人様の思いを把握するように努めている。入居時や御家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や行動に注意して観察し本人様の思いを出来るだけ汲み取るように心掛けている。	
			(外部評価) 管理者は「寄り添うケア」を大切に考えており、職員はそれを実践するため、利用者の側に座って目線を合わせて声かけを行うよう心がけている。言葉を話しづらい利用者にも絶えず声かけを行うことで、家族から「表情が豊かになった」という感想も聞かれるようになった。意向を伝えることができない利用者には、表情や様子を見て思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に今後の声掛けや介護に生かすことを説明した上で、本人様のこれまでの暮らし方や生活歴を本人様、御家族から伺っている。入居後も折にふれ話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者様の癖や生活パターンを観察し、どのような場面で不穏になるのか、どのような声掛けや援助をすればよいのか職員間で話し合い、共通認識を持つように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。また本人様、御家族の意見も取り入れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者や家族の意向を確認し、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者毎の担当制は設けず、職員は利用者一人ひとりの状況を把握するようにしている。毎月数回に分けてケースカンファレンスを行い、職員間で話し合いモニタリングを行っている。介護保険更新時にはサービス担当者会議を開催して介護計画の見直しをしている。気づきシートファイルやケアプランファイルを作成して情報の共有を図り、職員は介護計画を意識したケアに努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>個別に食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話している内容等を記録するようにしているが、結果や気づきが十分に記録へ反映できていない。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様、御家族のその時の状況に応じた対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また御家族が安心して就労や生活ができるように努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>傾聴ボランティアの受け入れをしている。また、消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講も行っている。</p>	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の訪問診療を受けたり、事業所の協力医のほ か、御家族の意向を聞き通院の介助を行っている。通院に関 しては、御家族同行をお願いしているが、不可能な時、緊急 時には職員が付き添いをしている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受診す ることができる。協力医との24時間体制での医療連携が取れて おり、月2回訪問診療のほか、急変時にも迅速に対応するこ とができるため、入居時に希望して協力医をかかりつけ医に する利用者も多い。また、市内で法人が運営する特別養護老 人ホームの看護師が週3回訪問し、健康管理をしている。希 望するかかりつけ医の訪問診療を受けている利用者もいる。 専門医の受診は家族付き添いを基本としているが、車いすの 利用者には職員が病院への送迎をしている。また、月2回音 楽療法を実施し、楽しみながら健康づくりをしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 主治医や訪問看護師と密な連絡体制ができており、日々の健 康管理や体調不良時に随時訪問して頂けるようになってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し、入院中は 職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努め、御家族とも 連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居者様の重度化に伴う指針を作成し、入居時に説明してい る。入居者様が元気で意思表示できるうちに可能であれば重 度化した場合の意向を伺う等、御家族とも話し合いをしてい る。また、どのような場合にホームでの対応が困難か等も合 わせて話をしている。	
			(外部評価) 「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、入 居時に利用者や家族に説明し意向を確認している。法人とし ては看取りを行わない方針で、利用者の状況変化に応じて、 事業所として対応できる内容を説明し、家族を交えて話し合 いながら適切な医療機関などに繋げている。家族から「可能 な限り事業所で見て欲しい」という要望が出され、職員研修 にも取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命法の受講をしたり、緊急時の対応について勉強会を行っている。夜間帯の緊急対応については周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、年2回入居者様も参加した避難訓練を行っている。消防署に火災や災害時の対応について相談を行いアドバイスを頂いている。また、地域の方との話し合いを行い、避難についての協力体制が築けている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。風水害や地震などの災害発生時には建物の安全性が確保されているため、地域の避難者の受け入れ要請があった場合には、事業所の一部を提供できるよう用意している。自治会から担架の貸し出しの提案や地域との合同避難訓練の情報提供がされている。運営推進会議で話し合いながら、地区の消防団にも訓練に参加してもらうよう呼びかけるなど、相互の協力体制を整えようとしている。また、水や食料品などの備蓄品を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症高齢者に対しての声掛けや態度、人格の尊重については職員会や勉強会で話し合いや学びの時間を設け、その中で自分自身の声掛けや態度について振り返りを行っている。 (外部評価) 管理者は職員に利用者の自尊心や羞恥心について考えながらケアをするよう指導している。トイレ介助時は利用者の安全を確保しながら、排泄中は職員は廊下に出て終わると合図してもらったり、抵抗のある利用者には可能な限り同性介助をしたりしている。入浴時や更衣時にはプライバシーを確保してケアをするよう気をつけている。また、利用者と呼ぶ時は、「さん」付けで呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から入居者様の状態に合わせた声掛けを行っている。思いや希望を引き出せるように複数の選択肢を与える声掛けを行うように心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の1日の流れはあるが入居者様の個々のペースを大切にし、希望に添えるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思決定できる入居者様に対しては洋服を選ぶことや髪型等、できるだけ本人様の意思を確認し決めるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で作った作物と一緒に調理して食べたり、一緒に食事の準備や後片付けをしたりしている。  (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、ユニット毎に職員が調理している。畑で収穫した玉ねぎやじゃがいもなどの野菜を使用して調理することもある。利用者が使い慣れた食器なども使用し、嚥下状態に合わせて食事形態を工夫して必要な栄養が摂取できるよう支援している。利用者は和やかな雰囲気ですべての食事をしている。利用者はジャガイモの皮むきや下膳などできることを一緒に手伝っている。また、家族の協力を得て外食をする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立により栄養バランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように水分量のチェックを行い、水分摂取量の少ない入居者様には好みの飲料を提供する等して水分量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後の口腔ケアは特に気をつけ1対1で付き添い念入りに行っている。毎晩、義歯の消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表を利用し排泄の声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を促している。排泄パターンを把握することにより時間帯によって布パンツ、紙パンツ、パット等を使い分けるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>男性用と女性用トイレがあり、トイレの場所が利用者に分かりやすいよう矢印を表示している。排泄パターンを把握して、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。そのために、利用者の状態や時間帯に合わせて声かけして誘導したり、適切な排泄用品を選択したりするなど排泄の自立を促している。夜間自力でポータブルトイレを使用している利用者もいるが、夜間もなるべくトイレで排泄できるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>体操や散歩を行い、食事に気をつけ、出来るだけ自然排便出来るように取り組んでいる。また緩下剤の使用も医師や看護師と相談し服用して頂き、排泄表でチェックしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日入浴できる対応はしている。入居者様の体調や希望に応じ入浴時間を調整したり、介助を行ったりして、気持ち良く入浴出来るよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の希望があれば、毎日入浴できるよう支援している。浴槽への移動が難しい利用者には、シャワーチェアやシャワーキャリーが用意され、安全に入浴ができるよう支援している。立位が保てない利用者には、2人体制で介助を行う場合もある。入浴が苦手な利用者には、職員を代えて声かけをしたり、時間や日を変えたりして対応している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中活動的に過ごして頂くことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。また日中でも体調や希望に応じて、居室で横になり休息する時間がとれている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が理解できるように個人ファイルに服薬説明書を閉じ、いつでも見ることができるようにしている。服薬状況に変化がある時には、職員の連絡ノートに記載し、全職員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの入居者様が好むお手伝いや楽しみごとを把握し、その都度お願いし感謝の言葉を伝えている。またお酒が好きな入居者様は毎晩、晩酌をされ笑顔を見せてくれる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日は日常的に散歩に出掛け、入居者様それぞれの誕生月には希望に応じてドライブや買い物、なじみの場所に行くことができるように支援している。  (外部評価) 天候の良い日は、広い敷地内や建物周辺を散歩している。地方祭の時にはスーパーまで太鼓台の見物に出かけている。公民館で開催されるお笑い寄席にも毎回参加するようになった。誕生月には、利用者の希望を聞いて、思い出の場所にドライブしたり、買い物に出かけたりするなど、特別な外出日として喜ばれている。	利用者の重度化に伴い利用者の外出する機会が減っているため、職員は近くにできたスーパーに買い物に連れて行ってあげたいと考えている。外出が難しい状況であるが、外出できる機会を増やせるよう工夫することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に入居者様がお金を持つことはなく、買い物をした時は職員が代行で支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様からの希望があれば電話できるように家族様にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所の廊下は車いすでの移動を安全に行える広さになっている。またホールではゆっくりとくつろげている。大きな窓からは外の景色を眺めることができ、畑の作物の収穫時には作物を見て手で触れ、季節を感じて頂けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>広い敷地内には畑があり、季節の野菜を栽培している。玄関には建物に添うように大きなスロープがあり、車いすでも容易に外出することができる。廊下も広くゆったりとしており、車いすがすれ違えるスペースが十分に確保されている。大きな窓から明るい光が差し込むリビングは食卓と畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。また、オープンキッチンで利用者は調理の様子を見たり匂いを感じたりすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合う入居者様同士が集まり話をする姿が毎日見られる。テレビを視聴したり、新聞を読んだり入居者様が思い思い自由に過ごされており、自然に一人になる時間が持てている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>御家族に協力いただき入居者様の思い入れのある家具や洋服、写真など身の回りの品が少しずつは増えているが、まだまだその人らしい居室になっているとは言えない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>広々とした居室にはクローゼット、エアコン、電動ベッドが備えつけられ、ベッドは利用者に合わせた高さに設定されている。壁には利用者の生活歴を辿るように若い頃からの写真がレイアウトされて飾られ、机には古いアルバムが置かれている。また、定期的に遠方の家族から送られる絵手紙を飾っている利用者もいる。ベッドでの生活に抵抗を感じる利用者のために、畳敷きの部屋も用意している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手すりや段差のない環境を作り、できるだけ一人で安全に移動できるようにしている。トイレや居室の場所がわからない場合、張り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。</p>	